

# 質的調査

## ■ KJ法

川喜田三郎によって提唱された質的データの分析手法の一つである。  
 ・ データが書き加えられたカードを分類し、見出しをつける作業を反復して行うことで、新たな観点を発見する手法である。見出しは、見出しカードに記入する。

- ▼ KJ法のプロセス
- ① カード作り: 1枚のカードに1つの情報を記入する。
  - ② 小グループ化: 内容が近いカードを集め、小グループを作る。
  - ③ 見出し作り: 小グループに「表札」として見出しをつける。
  - ④ 中・大グループ化: 小グループ化できなかつた1枚のカードを読み返し、内容の近いものを集め、中・大グループを作る。
  - ⑤ 図解化・文章化: 1枚の大きな紙にグループ間の関係性がわかるように図解化し、それを文章化する。

## ■ グラウンデッドセオリー (GT法)

・ グレイザー、B. G. とストラウス、A. I. によって提唱された質的データの分析手法の一つである。  
 ・ 社会的現象においてデータの収集と分析を反復して行うことでデータに根ざした理論 (Grounded Theory) の生成を目指すものである。

## ■ グラウンデッドセオリーアプローチのプロセス

① データの収集	・ 質的データの収集には様々な調査法を利用することがある。 ・ 調査法は、調査対象・調査内容によって適宜選択する。
② オープン・コーディング (見出しの作成)	・ 収集したデータに見出しをつける作業をいう。 ・ 例えばSWIHLを問うてデータを採る。
③ 軸足コーディング (カテゴリーの作成)	・ 収集したデータの関連性を探る作業をいう。 ・ データ間での仮説を立て、なぜ、どうやってなどの問いからデータを採る。
④ 選択的コーディング (カテゴリーの組織化)	・ 一定の仮説を立て理論の検証を図る作業をいう。 ・ ③によって得られたカテゴリーの体系化を進め理論の完成を図る。
⑤ 理論の完成	・ データの特性がそれ以上発展しない状態まで及ぶ。 ・ 理論がそれ以上発展しない状態を理論的飽和という。

質的調査	① 質的データ (数字には還元しない言語のデータ) の分析を通じて、現象の記述、仮説生成、モデル生成を目的とする調査	
調査手法	① 個別インタビュー ② 構造化インタビュー、半構造化インタビュー、非構造化インタビューがある ③ 少人数の調査対象者を会場に集合させ、調査者の進行のもとに行うインタビュー	
観察法	非参与観察法 ① 観察者が第三者として、あるがままの姿を外側から観察する ② マジックミラー (ワンウェイミラー) を使った観察を行うこともある	
	参与観察法 ① 調査者自身が対象集団に入り込み、内部から観察する ② 調査者の立場が、観察に備する「完全な観察者」と参加を重視する「完全な参加者」との間で行き来することがある	
統制観察法 (人工的操作を加える)	① 対象集団に、規制を加えたり、観察場面・手段に工夫を加えて観察を行う	
アクション・リサーチ	① 調査を行う研究者が当事者と協働して、両者が関与する問題の解決をめざしつつ調査や実践を進める	
面接法	非構造化面接 (自由面接法)	① 回答者が被面接者の反応や状況に応じて質問の形式や順序を自由に委ねて質問する方法 ② 1つ2つの質問をした後、対象者に自由に話してもらう
	構造化面接	① あらかじめ質問項目や順序を決めておいて、どの対象者にも同じように尋ねる
	半構造化面接	① 質問項目を一定数つくり、残りは対象者に自由に話してもらう

グラウンデッド・セオリー	① 観察や面接により資料収集を行い、記録し、データ化する。次にデータを単位化し、コードをつける。得られたコードを比較して、データのもつ意味を解釈する。この作業を繰り返し、いくつものコードを集約してカテゴリーをつくる
理論的飽和	① データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリーが出てこない状態
KJ法	① 質的データの分析において、主としてデータをまとめる際などに活用される ② データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、文章化して整理していく ③ データの分類と集約を繰り返して、分析前には気がつかなかつたことを創造的につくり出すこともある
ソシオグラム	① 特定のグループにおける人間関係の構造を視覚化するため、メンバー間の選択 (牽引)・拒否 (反発) 関係を用いて図解化したもの